

北日本放送

活動名	KNB 読み聞かせ事業
実施期間	令和 5 年 11 月 14 日・12 月 23 日
実施回数	2 回
配信作品数	50 作品
配信期間	令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月

【事業実施の成果・課題】

当初朗読イベントは 1 回の予定だったが、新型コロナ 5 類移行を受けて、子ども向けの読み聞かせ会も実施した。担当の森本アナウンサーはコロナ禍入社のため読み聞かせイベントの参加は初めてで、本人にとっても貴重な経験になった。また毎年開催している文学館と連携した朗読会は人気行事として定着し、会場には幅広い年齢層の来場があり、ふるさとの文学に触れる良い機会になっている。新年度は文学館のイベントに加え、7 月に開催する弊社開局イベントの会場や、弊社が運営する子ども向けの施設を活用して、読み聞かせ、朗読の催しを開催する予定。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<森本アナウンサー>

寄贈していただいた絵本を、一人で黙読するのとは違う受け取り方ができるように意識して読み聞かせをした。途中子どもたちに問いかけたり、会話文で子どもたちの顔を見るように工夫した。

今後「いりふねこども館」の利用や絵本に触れる機会が増えることにつながればと思う。

<木下アナウンサー>

郷土出身の小説家・ジャーナリスト 翁久允の作品は文体も古く難しい朗読だったが、100 年前を生きた先人の記述を手がかりに当時を知り、今の時代にも通じる世界の見方、ものの考え方を伝えることができとても有意義な会となった。ピアニスト、フルーティストが翁久允の生きた時代に世界で作られた名曲を選曲して演奏し、当時を顧みる演出も加えた。会場が文学専門の施設ということもあり、大雪にも関わらず文学好きの人たちが大勢集まり中には親子連れや学生の姿もあり、温かい雰囲気での朗読会となったことをうれしく思う。

【子どもたち・イベント参加者の感想】

<読み聞かせ会>

地域の保育園児を招待しての読み聞かせイベントはコロナ禍以降はじめてで、保育園側に非常に喜ばれた。子どもたちから歌のお礼（AKB48、365 日の紙飛行機）があり、会場にいたみんなが温かな気持ちとなった。

<文学館の朗読会 来場者からの感想>

- ・「文学作品とクラシック音楽の競演が素晴らしかった」（子どもと訪れた 40 代夫婦）
- ・「この日を楽しみにしていた。自分も絵本作家として絵本を寄贈しているのでこうした催しをきっかけに文学ファンが増えていって欲しい」（地元の絵本作家）

<朗読番組>

朗読ファンから担当アナウンサー宛に番組を聴いた感想が寄せられていて好評である。